

## 人間社会学部におけるキャリア女性学副専攻の動向

田部 俊充

### 1. はじめに

本稿では、人間社会学部におけるキャリア女性学副専攻の取り組みを報告したい。また、2011年度報告書に引き続き、西生田地区の地域連携に関する取り組みの状況や新しい方向性を展望したい。

まずは例年のことではあるが、人間社会学部におけるキャリア女性学副専攻の経緯をまとめたい。キャリア女性学副専攻の創設は、2002年度に人間社会学部において副専攻制度を設けた時に遡るから、それから10年間の経過したことになる。5つの学科（主専攻）と、それらを横断する3つの副専攻コースを開設することで、キャリアプランに直結する実践的なプログラムの提供を狙いとしたことは画期的であった。

2006年に文部科学省の大学教育高度化推進特別経費補助金と学内の特別重点化資金を得て「現代の女性高等教育ニーズに応じた多領域横断型副専攻プログラムの再編成」というテーマに取り組み、現代の女性高等教育ニーズに応じた多領域横断型プログラムの「キャリア女性学副専攻」へと再編された。

人間社会学部のキャリア女性学副専攻では、「キャリア女性学コア科目」を設けることで、3つの副専攻コースのいずれを選択しても、女性のライフコースを基盤としたキャリア設計に役立つように工夫されている。キャリア女性学コア科目は、1) キャリア形成、2) キャリア制度、3) ビジネス系、4) ライフコース系という4つの科目群から構成されており、それぞれの科目群には複数の科目が置かれている。各々の科目群は、それぞれ、1) ライフコースと女性の生き方や現代の家族事情を知る科目（現代女性の生き方を考える）、2) 労働事情を知りキャリアデザインを考える科目（現代社会での働き方を考える）、3) 女性たちの仕事の実際を知る科目（さまざまなビジネスやキャリアのありかたを知る）、4) 具体的な労働の場における諸問題と法律を学ぶ科目（キャリア女性をめぐる問題と解決法の実際を知るために）として配置された。

### 2. 副専攻委員会における取り組み

第1回会議（7月11日）においては、①2011年度のキャリア女性学副専攻委員会の運営について、②必修科目（「コンピュータライゼーション」「地域活動講座」「国際活動講座」）の教務・学科目委員会研教費配分額について、③現2・3年次キャリア女性学副専攻履修希望者数について（2011年度履修希望調査集計結果より）、④2010年度副専攻修了者について、⑤「現代ビジネス論」について（2010年度より継続審議）、が議題で

あった。

委員会のメンバー紹介、各コースの責任学科の確認を行い、昨年度の副専攻修了者や今年度の希望者データに基づき、今後の副専攻のあり方について検討した。⑤の議題については、「現代ビジネス論」に関する予算を捻出することが難しいという結論に至ったため、「現代ビジネス論」に代わる科目の提供を現代社会学科に依頼する旨、持ち回り審議（7月15日）を行った。異議なく承認され、現代社会学科に依頼を行った。「現代ビジネス論」の代わりとして「労働経済論Ⅱ」を提供して頂ける旨、現代社会学科より回答を得た。

第2回会議（12月12日）においては、①2012年度キャリア女性学副専攻及び副専攻科目表について、②ビジネス系科目群の選択科目について、が議題であった。

まず、2012年度キャリア女性学副専攻及び副専攻科目表について審議を行った。また、「現代ビジネス論」閉講に伴い、「労働経済論Ⅱ」をビジネス系科目群に追加することに関する検討を行った。今後の課題としては、「労働経済論Ⅱ」は隔年開講のため、2012年度入学者より適用とした場合、2011年度以前入学者は履修できる科目数が少なくなることが懸念される。ついては、本来は新規で選択科目を追加する場合は、新たな入学年度より適用とするのが原則となるが、2011年度以前入学者も適用とし、履修できる科目数を増やしたい、と説明がなされ、異議なく承認された。

### 3. 2012年度における履修状況

2012年度におけるキャリア女性学副専攻の履修状況は、3年次は総計113名、在籍者数の22.7%、2年次は総計108名、在籍者数の25.3%が副専攻のいずれかのコースを履修している（表参照）。各学科の2年次の取得希望状況（%）を比較すると、現社、社福、心理の各学科が微増であるのに対して教育学科が激減している。これは教職課程の取得者が大半を占めるようになってきていること、1年次、2年次に教職に特化した4節に述べる「学校インターンシップ」を導入したことにより、副専攻取得の余裕がなくなったことによるものと推察される。今後、この「キャリア女性学副専攻」と教職をはじめとする専門科目の関連を考えていく必要がある。

キャリア女性学副専攻では、2年次のはじめに登録し、3年次に所定の単位が取得されていると、4年次に単位修得証明書を発行しており、その証明書が就職活動に役立つように配慮されている。

### 4. 人間社会学部と地域連携活動と今後の展望

2005年に専修大学、明治大学とともに「多摩区・3大学連携協議会」設置協定を締結して以降、生涯学習センターにおける川崎市との連携講座の開講、多摩区内を中心に学校教育ボランティア学校サポート事業、読売ランド駅前の地域活動拠点サクラボによる地域連携活動等を実施してきた。

2011年7月21日、日本女子大学は川崎市と連携協定を締結した。2011年後期より、学校教育ボランティア事業を発展する形で、幼稚園、小学校の教職希望者を対象として、学校インターンシップ事業を導入し、2011年度は「学校インターンシップⅠ」として、学部1年生（幼稚園24名、小学校49名）が週1日（計8日間）連携協力校・園を訪問し、授業を参観し、簡単なボランティアを体験させていただいた。

2012年秋には学部1年生、2年生を対象にして「学校インターンシップⅠ」、「学校インターンシップⅡ」を開講する予定である。学部3年生、4年生における学校教育ボランティア、教育実習、学部4年後期の教職実践演習に至るまで、地域や附属校・園、協力校・園と連携した教員養成プログラムを構築し、地域連携活動の核としていきたい。

人間社会学部キャリア女性学副専攻履修状況 2012年4月

| 2年次       | 現社 | 社福 | 教育 | 心理 | 文化 | 計   |
|-----------|----|----|----|----|----|-----|
| 地域・行政コース  | 12 | 21 | 2  | 6  | 11 | 52  |
| 国際活動コース   | 4  | 7  | 0  | 7  | 11 | 29  |
| （英語）      | 1  | 5  | 0  | 3  | 4  | 13  |
| （ドイツ語）    | 1  | 0  | 0  | 0  | 1  | 2   |
| （フランス語）   | 0  | 1  | 0  | 2  | 3  | 6   |
| （中国語）     | 2  | 1  | 0  | 1  | 0  | 4   |
| （イタリア語）   | 0  | 0  | 0  | 1  | 3  | 4   |
| 情報メディアコース | 7  | 5  | 0  | 12 | 3  | 27  |
| 計         | 23 | 33 | 2  | 25 | 25 | 108 |

|                   |      |      |     |      |      |      |
|-------------------|------|------|-----|------|------|------|
| 在籍者数              | 80   | 96   | 78  | 74   | 99   | 427  |
| 在籍者数に対する履修者数割合（％） | 28.8 | 34.4 | 2.6 | 33.8 | 25.3 | 25.3 |

| 3年次       | 現社 | 社福 | 教育 | 心理 | 文化 | 計   |
|-----------|----|----|----|----|----|-----|
| 地域・行政コース  | 8  | 22 | 8  | 3  | 4  | 45  |
| 国際活動コース   | 7  | 2  | 5  | 10 | 26 | 50  |
| （英語）      | 2  | 0  | 5  | 4  | 14 | 25  |
| （ドイツ語）    | 1  | 1  | 0  | 3  | 2  | 7   |
| （フランス語）   | 0  | 1  | 0  | 2  | 1  | 4   |
| （中国語）     | 4  | 0  | 0  | 1  | 7  | 12  |
| （イタリア語）   | 0  | 0  | 0  | 0  | 2  | 2   |
| 情報メディアコース | 6  | 4  | 1  | 1  | 6  | 18  |
| 計         | 21 | 28 | 14 | 14 | 36 | 113 |

|                   |      |      |      |      |      |      |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|
| 在籍者数              | 98   | 108  | 104  | 58   | 130  | 498  |
| 在籍者数に対する履修者数割合（％） | 21.4 | 25.9 | 13.5 | 24.1 | 27.7 | 22.7 |

※在籍者数は、2012年4月20日現在

西生田学務課作成

(たべ としみつ 人間社会学部教育学科教授・人間社会学部長補佐・  
西生田地区教職課程委員長)